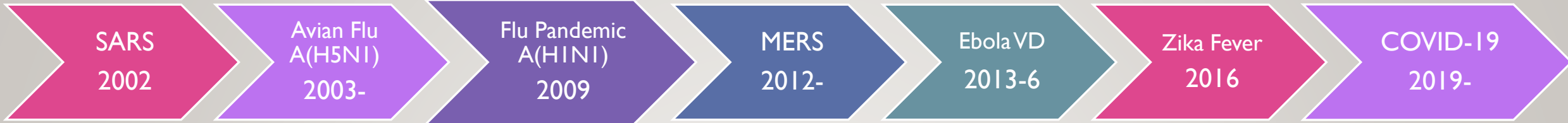


感染症危機に備えるための リスクコミュニケーション

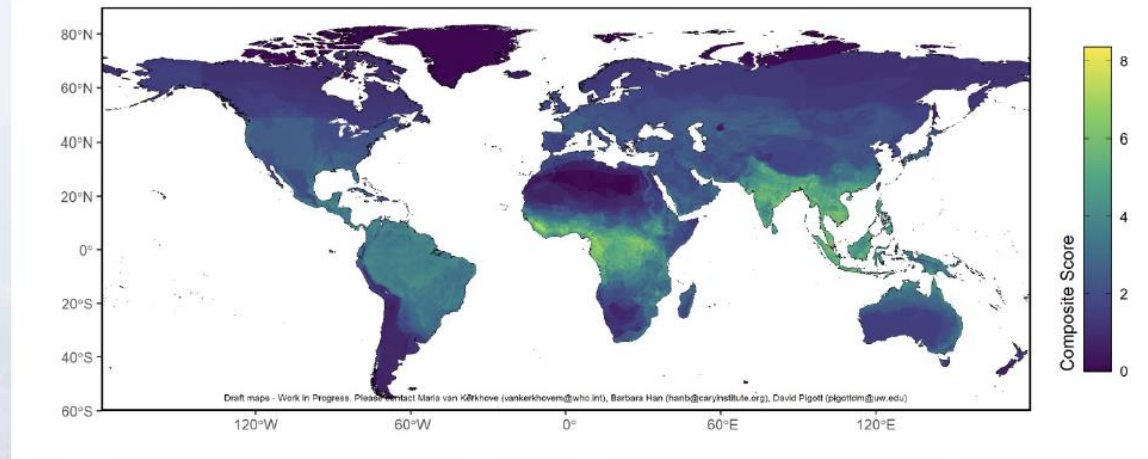
大東文化大学 スポーツ・健康科学部健康科学科教授
日本環境感染学会 リスクコミュニケーション委員会委員長
中島一敏

21世紀の世界的な感染症危機



Mapping emergence and spillover risk of pathogens with epidemic and pandemic potential

Draft maps - work in progress. Please contact Maria Van Kerkhove (vankerkhove@who.int), Barbara Han (hanb@caryinstitute.org), David Pigott (pigottdm@uw.edu)



Pathogens included: Dengue, Chikungunya, Zika, Henipaviruses: Hendra and Nipah, Mpox, MERS-CoV, Plague, Ebola, Marburg;

Pathogens to include: HPAI, CoV SARS-CoV-2 and begacoronaviruses Lassa fever, Rift Valley Fever, and Crimean-Congo Haemorrhagic Fever



**Polio
Mpox
Etc.**

感染症危機管理：リスクガバナンス



リスクアセスメント



合理的なマネジメントへ



拡大の可能性

COVID-19の疫学的特徴と対策

- 多数の無症状感染者、軽症者
- 発病日前後の高い感染性
- クラスターの連鎖による拡大
- 3密環境の感染リスク



- 市民の基本的な感染予防行動の推進
- 患者隔離の効果は限定的
- 接触者、ハイリスク者の行動自粛
- 市中の感染機会、3密環境の抑制
- 院内感染対策、クラスター対策
- 蔓延時の接触機会の制限

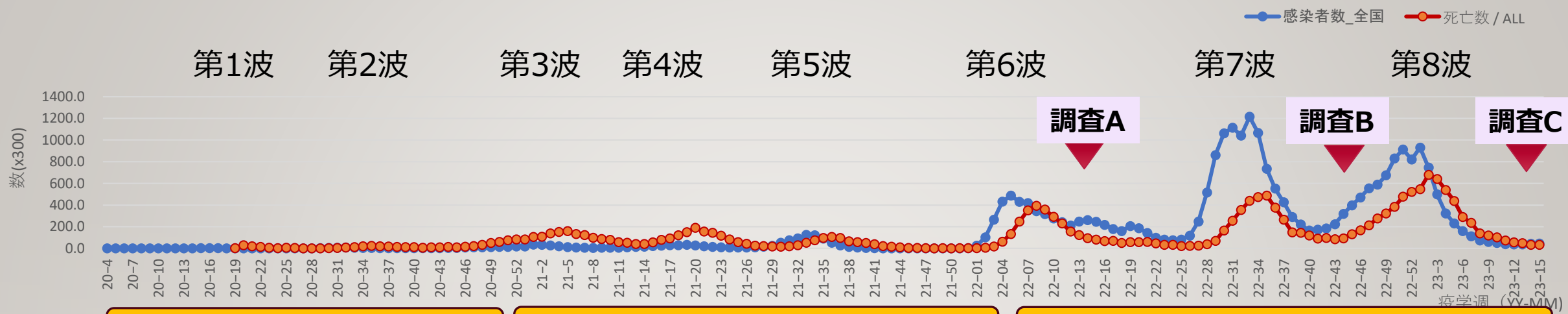


全市民の行動変容が必要

SARS

- ➡ ほぼ全例が重症
- ➡ 発病前や発病初期の低い感染性
- ➡ 感染の多くが医療機関内
- ➡ 早期発見・早期隔離、院内感染対策

COVID-19パンデミックの推移と不安・ジレンマ



死への恐怖・未知への不安 **先が見えない不安・困窮・不平等感** **コロナ疲れ・フラストレーション**

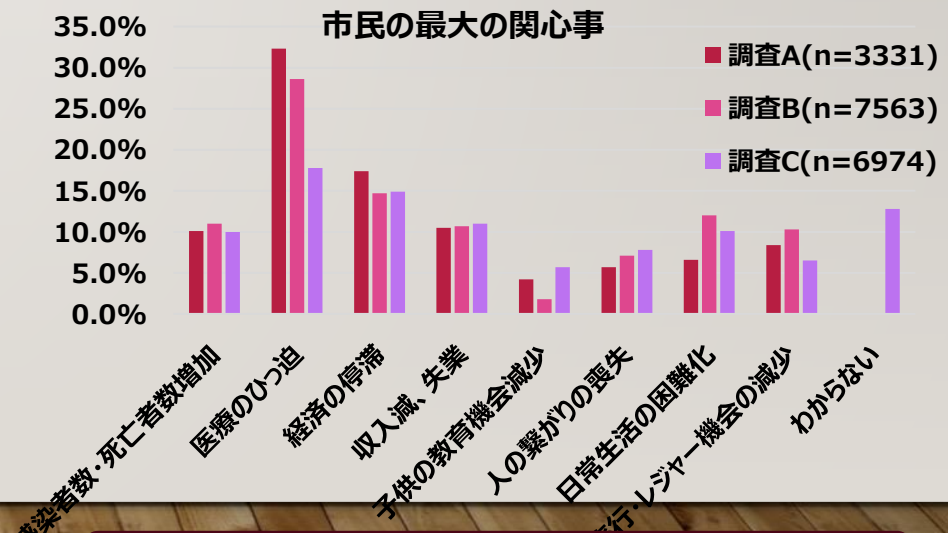
科学的知見・見解の発信・解説 **双方向の対話の試み** **多様な価値観、“解説”の限界、対話・集合知の必要性**

専門家会議 / ADB座長、分科会会長の記者レク

専門家のメディアでの解説

専門家・専門組織発の情報発信

東京iCDC リスコミチームによる“傾聴”“対話”



感染者・家族への偏見差別

誹謗中傷

誤・偽情報

ひっ迫

検査体制に対する不満

新薬への過剰な期待・楽観視

ワクチン待望・遅れ批判

ワクチン忌避反ワクチン

多くのなぜ

「若者」批判

接触者対応への負担感・不平等感

半年程度で終わるのでは

生活の困窮と不安

「わかってこない」

医療と社会の乖離・分断、期待と不安

不確実性の高い感染症危機における人々の思考プロセスと行動

- (不安、疑問)
- 理解
- 納得
- 共感・連帯感
- 信頼
- 自身の価値観、優先順位
- 自己決定：セルフコントロール
- 行動 (変容)

リスクコミュニケーションの進め方と信頼構築

送り手側のリ
スク情報の**公
正さ**

送り手と受け
手の情報**共有
度**（受け手の
リスク理解）

両者の**共考的
構え**

送り手や受け
手の立場の**相
互理解**

送り手に対す
る**信頼性**

態度許容（リ
スク**受容**）

行動変容

参考資料

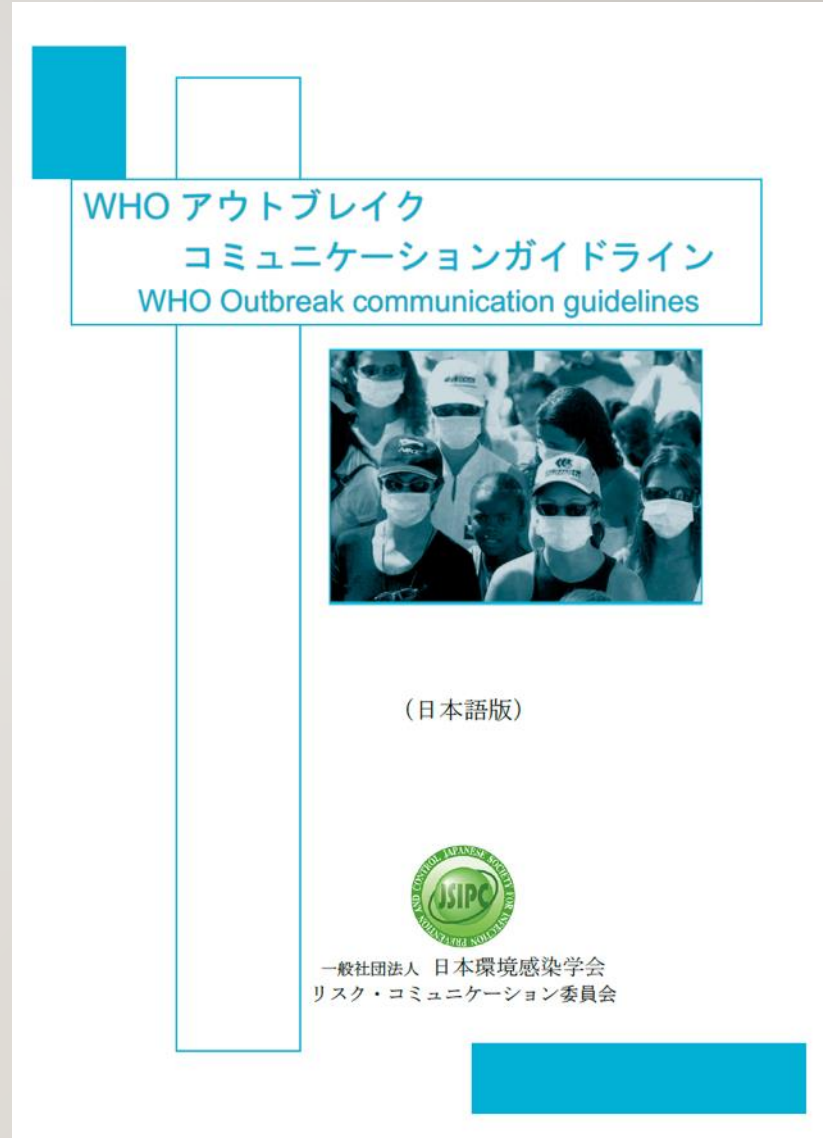


感染症危機に備えた
リスクコミュニケーションマニュアル

令和6年9月

株式会社三菱総合研究所

内閣感染症危機管理統括庁令和6年度委託調査
研究「感染症危機におけるリスクコミュニケーション
に関する研究」報告書



奈良由美子著 リスクコミュニケーションの探求
内閣感染症危機管理庁委託調査研究：「感染症危機管理に備えたリスクコミュニケーションマニュアル」
日本環境感染学会リスコミ委員会訳 WHOアウトブレイクコミュニケーションガイドライン

リスクコミュニケーションにおける7つの誤解

誤解	正しくは
「リスクミとは相手を説得するための情報戦術」	リスクミは、個人、機関、集団間での情報や意見のやり取りを通じて、リスク情報とその見方の共有を目指す活動
「リスクミとはコピーライティング」	信頼の構築。リスクミは適切なリスク対応のためにお行われ、単独ではなく、リスク評価やリスク管理も含めたリスクガバナンスの枠の中で捉える。
「リスクミとは情報発信を行うこと」	リスクミの機能は情報発信だけにとどまらない。広報、公聴、対話。インテリジェンス機能が必須（調査・分析）。
「リスクミとは“話せば分かる”の精神で行う営み、職人芸」	リスクミは学術的にも蓄積ある知識体系。理論／知識と実践／スキルの調和が重要。PDCA
「リスクミのやり方はその都度変わる」	リスクミでは、原則（科学的、迅速性、透明性、一貫性、信頼、共感、相手はリスク対策のパートナー等）を共有、ぶれない。その上での弾力的対応。
「リスクミとは有事のための営み」	リスクミ（広義）は有事のクライシス・コミュニケーションを含む、平時からの営み。普段できないことはいざというときでもできない。普段が大事。
「リスクミとは広報の1部門」	リスクミは、トップに直結あるいは近いところに位置しつつ、関連する部局に横断的に関わる。

リスクコミュニケーションの理念

- 『リスクコミュニケーションとは、個人、機関、集団間での情報や意見のやりとりを通じて、**リスク情報**とその見方の**共有を目指す活動**であり、適切な**リスク対応**（必要な情報に基づく意思決定・行動変容・信頼構築等）のため、多様な関係者の**相互作用**等を重視した概念』

双方向のやり取り

感染症危機に備えた
リスクコミュニケーションマニュアル

令和6年9月

株式会社三菱総合研究所

感染症危機におけるリスクコミュニケーション

- 一方的な情報提供ではなく、双方向のコミュニケーション
- 一方的に行動変容を求めても、対応の負担感から反発を招くこともある
- 不安、偏見・差別の発生に注意
- 偽・誤情報の流布に注意
- あらゆる関係者は感染症対策の主体であり得る
- 公聴、傾聴が重要
- PDCA

欠如モデル (DEFICIT MODEL)

送り手が陥りやすい思い込み

- 「一般のひとびとはリスクさらにはリスク管理について専門的内容を理解しておらず、それらに対して感情的で主観的なとらえ方をする。それが適切なレベルでのリスク受容やリスク対処行動を阻んだり、不安を引き起こしたりしている。」
- 「一般のひとびとには知識が欠けている、そこで専門家が補ってあげなくてはならない」とする考え方
- 「リスクコミュニケーションの場面でしばしば見られる、行政や専門家と一般のひとびととの対立は、知識の不足だけが原因ではない。たとえ知識があっても不安が払拭されなかったり、専門家が期待するような行動変容をとらなかったりすることもある。」

私達はなぜリスクを見誤るのだろうか リスク認知と認知バイアス

- リスク認知
 - 望ましくない結果をもたらす可能性についての、ひとによる主観的な判断
- 認知バイアス
 - リスク認知の過程に伴うバイアス
 - ① 正常性バイアス 「こんなはずはない」. 「これは正常なのだ」
 - ② 楽観主義バイアス 「タバコ1本くらいならがんにはならない」
 - ③ ベテラン・バイアス 経験しているがゆえにリスクをゆがめて見てしまう
 - ④ バージン・バイアス 未経験であるがゆえにリスクをゆがめて見てしまう
 - ⑤ 協調性バイアス 周囲のひとに同調してリスクを認知するバイアス

対話の必要性

お互いが見えていなかったところを共有し集合知を得る

市民が

知っている問題

知らない問題

知っている問題

公開領域
(専門家も素人も知っている)

隠蔽領域
(専門家は知っているが素人は知らない)

専門家・行政が

知らない問題

盲点領域
(素人は気づいているが、専門家は気づいていない)

未知領域
(専門家も素人も気づいていない)

“ジョハリの窓”から展開

対話によって、知の拡大と共有が得られる（集合知）

「集合知」を得るためには



『意見の「多様性」「独立性」「分散性」「集約性」の4つの要件を満たす集団は正確な判断を下しやすい』

集合知：「みんなの意見を聞くこと」が良くなるための注意点

- 多様性 (diversity of opinion)

- ✓ 各参加者がそれぞれに**独自の視点**があれば、総体として多くの候補解を列挙可能。**探索空間が狭い場合**には、その探索空間内に**適切な解が存在しない可能性**

- 独立性 (Independence)

- ✓ 各参加者の持つ意見や提案が**他の参加者の影響を受けないよう**各参加者の独立性が確保されている必要。とくに**小集団で議論を行う場合**には、多様性が低いために**偏った結論に集約される危険性**

- 分散性 (decentralization)

- ✓ 問題を抽象化せず、**各参加者が直接得られる情報に基づいて判断**する 必要。参加者ごとに得られる情報の種類は異なると予想されるが、多様性を維持するためにも、各参加者に共通する**属性のみで判断すべきでない**。

- 集約性 (aggregation)

- ✓ 上記3点の特性を生かして得られた**知識を参加者全体で共有し、比較検討して最終的な結論を導く仕組み**が必要

権威主義、仲良しグループ、イエスマンではダメ

信頼 TRUST について



聞き手の気持ちに寄り添ったメッセージが重要 リスクメッセージの差は何に起因するのか

ドイツ メルケル首相（当時）



米国 トランプ大統領（当時）



「……こうした制約は、渡航や移動の自由が苦難の末に勝ち取られた権利であるという経験をしてきた私のような人間にとり、絶対的な必要性がなければ正当化し得ないものなのです。」2020年3月18日

Bloomberg

Trump's Error-Laden 'Foreign Virus' Speech Spooks Investors

欧州から米国への入国を向こう30日間大幅に制限すると表明。パンデミック（世界的大流行）となった新型コロナウイルスを「外国のウイルス」と呼び、トランプ流の好戦的な手法で、大統領就任後で最大の危機を突破しようとした。

欧州が厳しい移民政策を採用していれば米国での感染拡大は防げたとして、同盟国批判を展開する一方、自身の判断により米国内の流行は抑えられていると自賛。ブルームバーグ・ニュースの集計データによると、米国内の感染件数は1300件を超え、死者は38人。2020年3月11日

REUTERS/Fabrizio Bensch

NewsWeek Japan. <https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/12/2020-27.php>

Bloomberg. <https://www.Bloomberg.co.jp/news/articles/2020-03-12/Q733UQDWLU6S01>

健康危機における信頼構築



信頼 Trustについて (WHO)

- Building and maintaining TRUST is fundamental.
信頼関係の構築と維持は不可欠
- With TRUST, the public health advice given during an emergency will be taken seriously.
信頼関係があれば、危機において公衆衛生当局の助言は市民に真剣に受け入れられる。

Characteristics of Trust

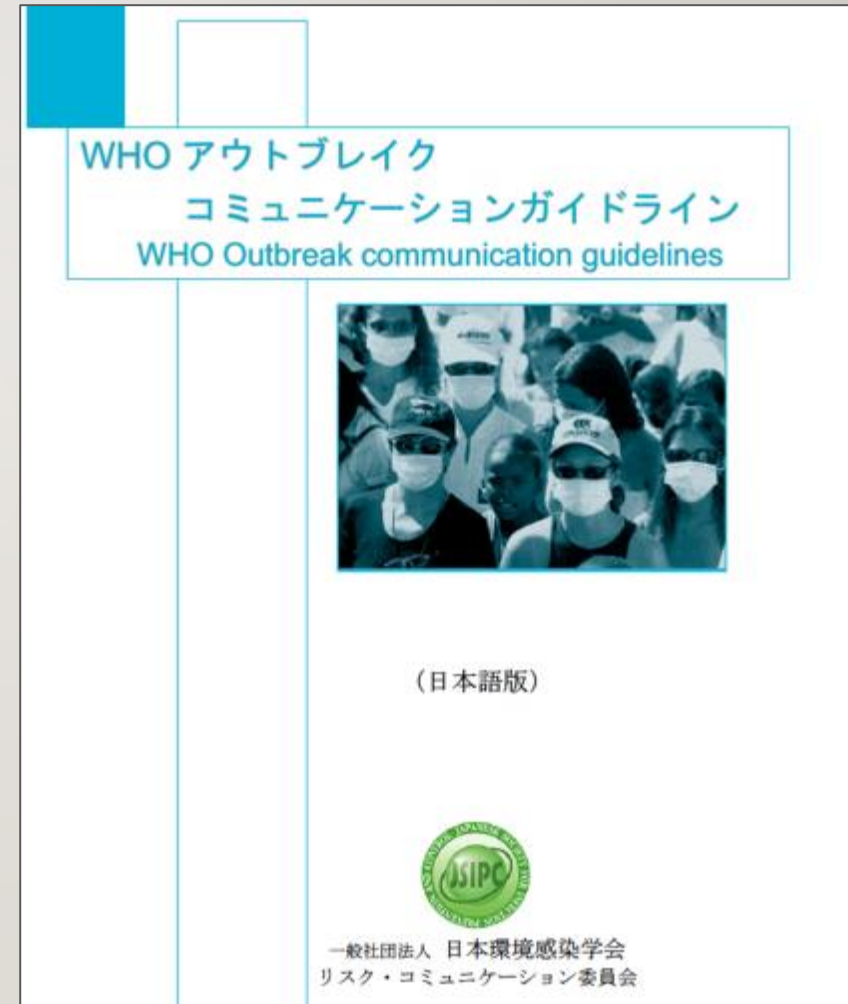
信頼の特徴



信頼構築はリスクコミュニケーションの要

感染症アウトブレイクにおけるリスクコミュニケーションのベストプラクティスの5つの要点を整理

- ・信頼
- ・速やかな公表
- ・透明性
- ・市民
- ・計画策定



リスクコミュニケーションの分類と手法



リスクコミュニケーションの分類

考え方	分類	概要
A リスクコミュニケーションと クライシスコミュニケーション とを 時期 で分ける考え方	1 リスクコミュニケーション	危機発生前後（未然防止期、悪化防止・回復期）のコミュニケーション
	2 クライシスコミュニケーション	危機発生直後（即時対応期）のコミュニケーション
B リスクコミュニケーション 自体を 機能 で分ける考え方	1 ケアコミュニケーション	科学的に根拠のあるリスク情報に基づいて寄り添うことを目的
	2 コンセンサスコミュニケーション	合意形成に向けて促すことを目的
	3 クライシスコミュニケーション	危機下における適切な対処を目的

リスクコミュニケーションの様式（モード）

様式（モード）	概要	相互作用性
ケア・コミュニケーション	危険性とその管理方法が、聞き手の殆どから受け容れられている科学的研究によって、既によく定められているリスクに関するもの。	トップダウン的・一方向的知識・情報の提供
コンセンサス・コミュニケーション	リスク管理の仕方に関する意思決定に向けて共に働くように、集団に知識を提供し鼓舞するためのもの。	相互作用的对話・共考・協働
クライシス・コミュニケーション	極度で突発的な危険に直面した際のもの。緊急事態が発生している最中またはその後に行われる。	トップダウン的・一方向的知識・情報の提供

リスクコミュニケーションの進め方

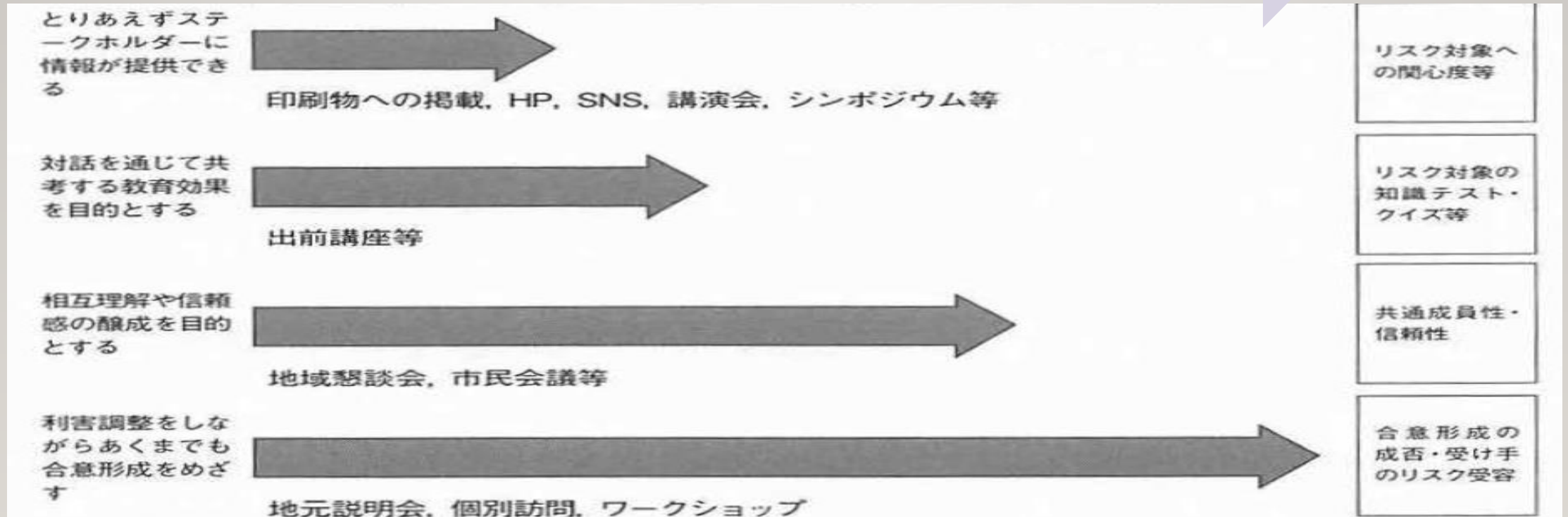
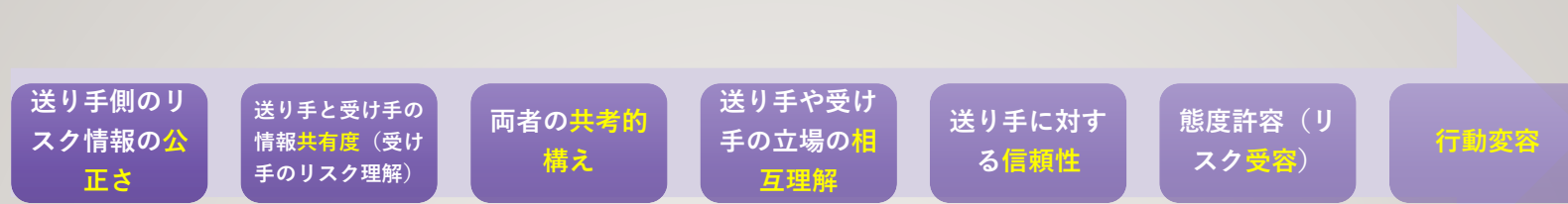


図6-1 リスクコミュニケーションの進め方

(木下 (2008, 2009) をもとに, 追手門学院大学 金川智恵が図表作成)

情報が溢れる社会：INFODEMIC
偏った情報への曝露
必要な情報へたどり着けない

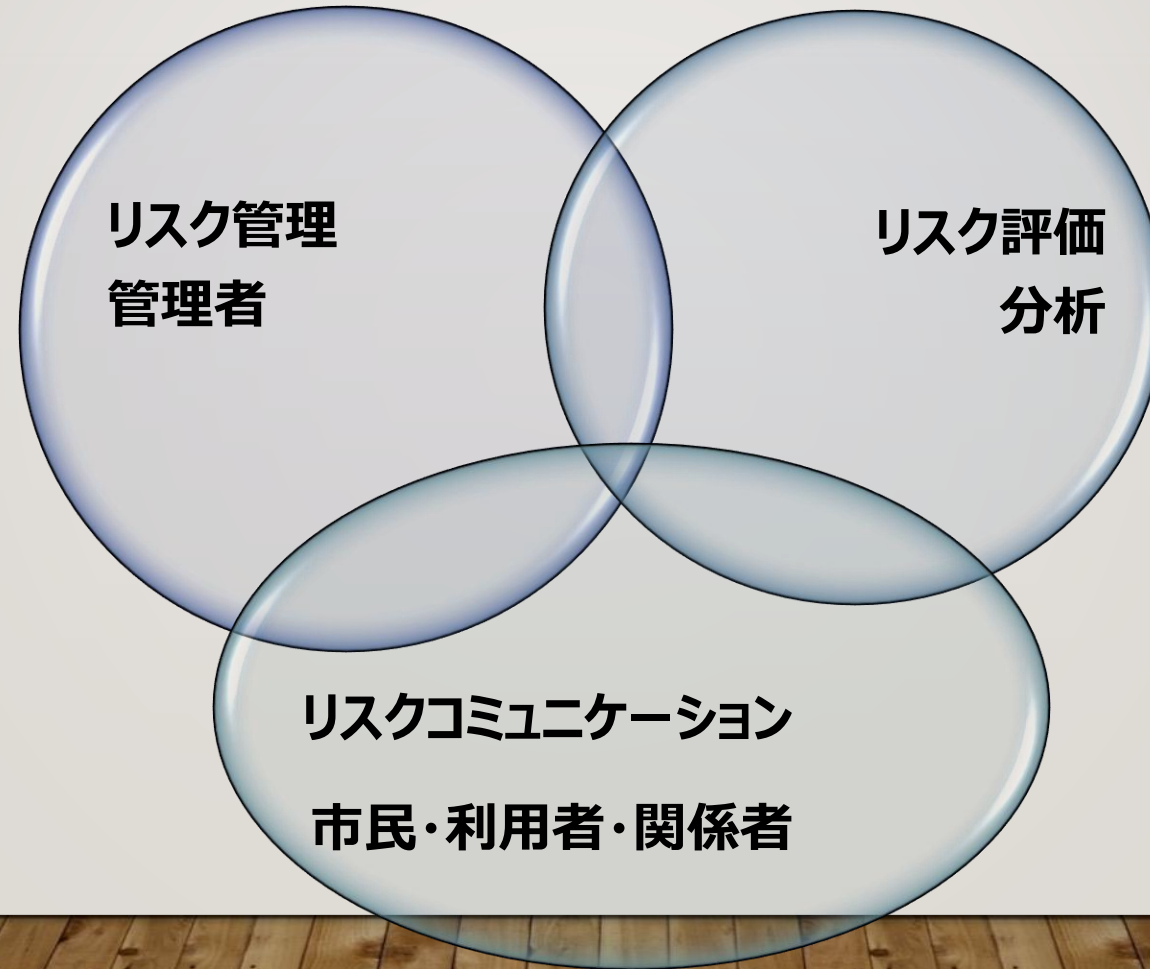
Infodemic management Working effectively in the field



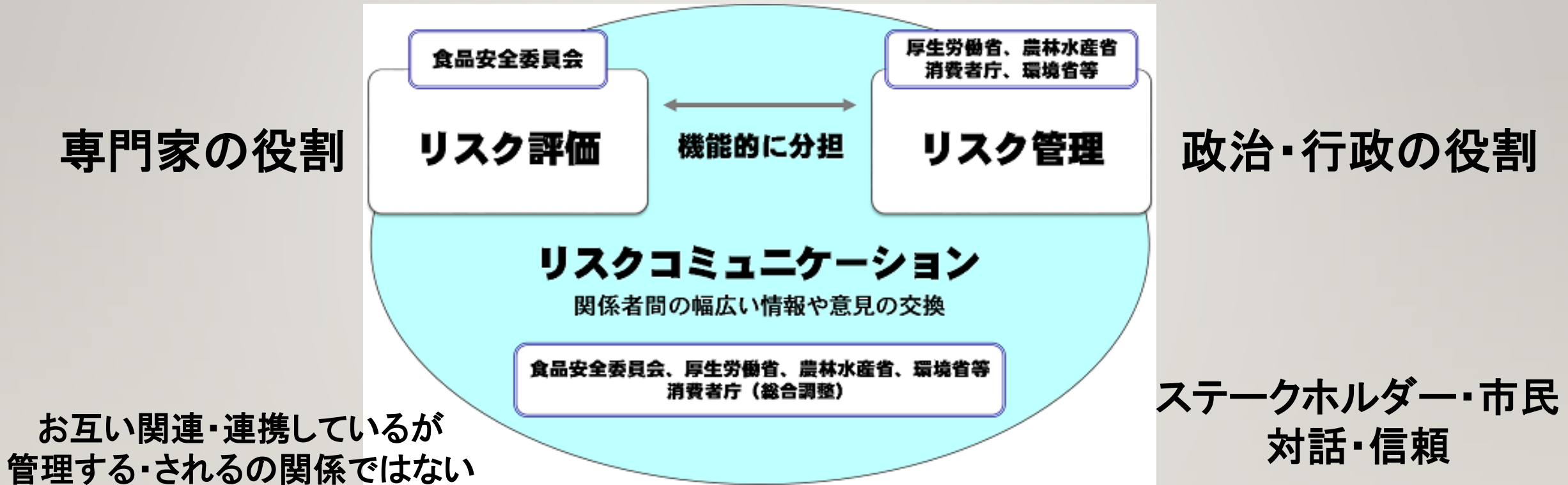
WHO. Infodemic Management: Working effectively as an infodemic manager in the field

リスクガバナンス

リスク管理、リスク評価、リスクコミュニケーションの関係



食品衛生におけるリスクガバナンスの仕組み（リスクアナリシス） リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションの関係



FAO/WHO合同のCODEX(国際食品規格)委員会が提唱

消費者庁: 食品の安全を守る仕組み。

感染症危機におけるリスクコミュニケーションの将来像（私案）

